

歩行時の記憶などについての音声記録書き起こし

(関)

「まず家を、家を出ると、一週間に2回は燃えるゴミの日だから燃えるゴミを片手に家を出ているから、今日はすんなりと家を出れたなと思いつつ、歩いて行って、一番最初の交差点は結構車がカーブすることが多いから気を付けなくちゃいけないし、遠くから車の音がしてきたら、傾合いをみて、渡るか待つかをしなくちゃいけなくて、で、うまく渡れたら、そのままあの緑の道をテクテクと歩いて行きます。

今日は、今日は日曜日だから特に人はあんまり、いつも見る人たちはあんまりいなかったかな。あの道でいつも朝すれ違うのは、ちょっと白髪交じりのおじさんで、その人は前勤めていた店によく来ていたお客さんにすごい似てるけど、冬はいつもミリタリーカーキブルゾンを着てて、というかいつもその同じ格好で、そのブルゾンの下から白いパーカーがちょっと出ていて、最近ちょっと違う服装をしていることがわかってきた。毎日ちょっと違う服を来ている。で、そのおじさんにすれ違う前に、そうつまり最初の道を渡ったところで全身黒のワンピースみたいなものを着た、ちょっと大きめのおばさんにすれ違う。その大きめのおばさんとおじさんは、同じ職場なんじゃないかってちょっと思ったりするけど、それはどうなのかちょっとよくわかんないけど、でも芦花公園、芦花公園のホワイトストーンの私の家の後ろの方にある職場ってそんなにいっぱいいないと思うんですけど、そう実は一緒の職場なのかなって思ったりする。っていう。であの道はその2人の記憶がすごく強いから、やっぱりその人達のことをいつも考えながらあそこを通る。で、信号、信号が結構長いから、そう国道20号線？なので、待っている間にいろんな人たちがこの辺に住んでるだなということがわかる。こう、おばあちゃんもいれば若いカップルも結構いて、まあ若いカップルの方が多分多くて、若いカップルをこういろいろみ比べたりするっていうのは結構おもしろい。こう、ハワイアンシャツみたいなものを着ていた男の子がいて、その人の足元がやたらタイトで、なんか妙に長い感じがあって、それはなんかハイブリットなファッションなんだなって思ったんだけど、それについてなんかそこに目を取られながら信号を渡ってそのまま駅の方まで歩いて行って、そうそしたらまた、別の新しいカップルが目の前に現れて、カップルはこうやっぱなんか服装だったりとかなんかいろいろとこう共有するカルチャーだったりとかがある。あるから似てるんだなって思いながら、最後の信号を渡って、そして、最後の細い道を歩く。その細い道はすごいちっちゃい商店街の裏道、お店の裏側なので結構朝は生ゴミみたいなものとか置いてあったりあとは、ペットショップの洗濯物みたいなものが干してあったりする。こう、とても雑多な感じ。で、朝は結構急いでいるからここは走ったりする。この道らへんはもう走ってたりして、で、右手の方にあるお寿司屋さんは、ここ3ヶ月くらいかけて改装してて、こないだその改装が終わって、いまはなんか中が全く見えない、こう粹な感じのお店になったんだけど、それまではずっと朝行くときはそこに大工さん達がいた。そこに青いジャンパーを着た男の人がいて、多分現場監督で、その人がいつもいるなっていうのを覚えてた。で、階段を上がる。階段は今日は1段づつ上がったけどいつもは一段抜かしでぐいぐいと登っていきます。そして、懐にもう定期券を用意してて、この一段飛ばしで上がった勢いでサッと改札を抜けまします。えーと家から駅まではその朝の記憶が多いからこれは通勤の始まりの記憶っていう感じです。以上。」